

# 2020年度 直接支援家庭向け調査報告書 (概要版)



2021.4.12

事務局から直接的に支援を受ける家庭について、  
家庭を取り巻く環境や、当団体とのつながりに対する意識や実態を把握し、  
今後の活動の示唆とする。



調査目的	直接支援を受ける方の家庭環境やOOCとのつながりに対する評価を定量的に把握し、今後の活動の示唆とする。
調査手法	インターネット調査
調査対象	春休みのおすそわけ希望あり世帯、計718世帯
調査時期	2021年3月12日（金）～3月31日（水）
回答数（回答率）	585サンプル（81.5%）

1

直接支援を受ける家庭のうち、7割弱はコロナ禍により収入が減少。  
また、家族の在宅時間が長くなることで支出も増え、生活困窮度は高まっている。

2

直接支援を受ける家庭は、公的支援の受給率が高くなく、  
おてらおやつクラブ以外の支援団体とのつながりは希薄である。

3

直接支援により、心理的状況が改善された方は9割以上を占め、  
経済的な状況改善（8割）を上回る。

コロナ禍、全国のお母さんから「たすけて」の声が急増しています。

おてらおやつクラブは地域で人々が繋がり、助け合う社会の創出を目指していますが、現実はまだまだそのような社会とは程遠い状況にあります。今回の調査結果にもあるように、多くのお母さんたちが急激な変化や制度のはざまに苦しみ、日々の生活困窮度が増えています。いつまで続くかわからない状況で、「いま・ここ」での苦しみに加え、この先も見通せない不安を抱えておられます。困難を和らげるためのさまざまな選択肢につなぐことができている実態も浮き彫りになりました。自助がままならない状況で、地域にある公助や共助にもつなげられない。その理由はさまざまです。個々のケースを分析しながら解きほぐしていくこと、そして適切な問題解決策へと「はしわたし」していくことも私たちの役割の一つです。より一層、支援団体さまや行政機関との連携の重要性が増えています。

連携する団体で活動する学生さんが「おてらおやつクラブの活動は“遠くの親戚より近くの他人”を実践していますね」と評してくれました。さまざまな支援団体が立ち上がり、地域で活動を続けられていますが、地域で困窮する世帯とつながることがなかなか難しい状況の中、奈良県にあるおてらおやつクラブに全国からこれだけ「たすけて」の声が届くことの不思議さを紐解いてくれました。それぞれが抱える困難の解決に、アクセスしやすい「近さ」と、近すぎない関係だからこそ悩み事を打ち明けられる「他人」の存在が大きな力になる。スマートフォンでインターネットにつながっていることがライフラインとなっている困窮世帯にとって、365日24時間「たすけて」の声を送信できる窓口の存在が頼りになり、その運営に「見返りを求めない」「なんらかの解決策を一緒に考えてくれそう」なお坊さんの存在を頼りにしてくれている、まさに「近くの他人」となっている、というのがその分析です。当活動が「近くの他人」として機能し続けることで、相対的貧困の課題である「社会からの孤立」の解消に大きく寄与し得ると考えています。

実際にそのような役割が果たしているか・・・まだまだ道半ばですが、ひきつづき全国から届く「たすけて」の声にお応えできるよう、活動を続けていきます。

松島靖朗／認定NPO法人おてらおやつクラブ代表理事

直接支援を受ける家庭の多くは、ひとり親家庭でありながら、パート・アルバイトや失業により、経済的に厳しい状況に置かれている実態が垣間見える。

## Q. 雇用形態

	N	パート・アルバイト	正社員	契約社員	自営業・フリーランス	派遣社員	無職
全体	585	47.0%	19.8%	6.8%	3.9%	3.4%	19.0%

## Q. 仕事での収入

	N	収入なし	1～5万円未満	5～10万円未満	10～15万円未満	15～20万円未満	20～25万円未満	25万円以上
全体	585	29.7%	9.6%	19.8%	23.6%	12.0%	3.9%	1.4%

## Q. 預貯金

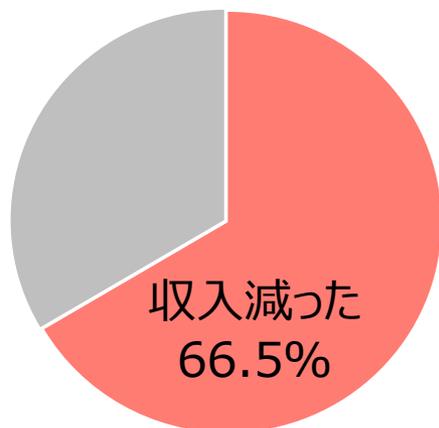
	N	預貯金なし	1～50万円未満	50～100万円未満	100～150万円未満	150～200万円未満	200万円以上
全体	585	42.1%	29.7%	14.9%	5.6%	2.6%	5.1%

## Q. 子どもの人数

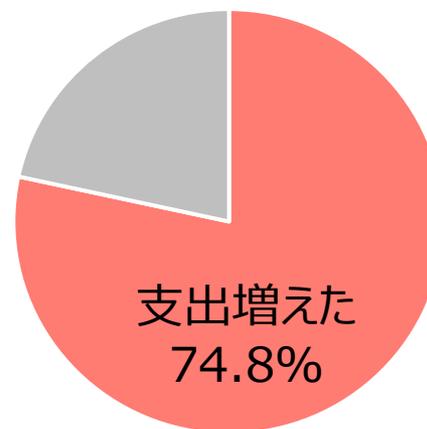
	N	1人	2人	3人	4人	5人
全体	585	46.5%	37.6%	11.6%	2.9%	1.4%

直接支援を受ける家庭のうち、7割弱はコロナ禍により収入が減少。  
また、家族の在宅時間が長くなることで支出も増え、生活困窮度は高まっている。

Q. コロナ禍による収入変化



Q. コロナ禍による支出変化



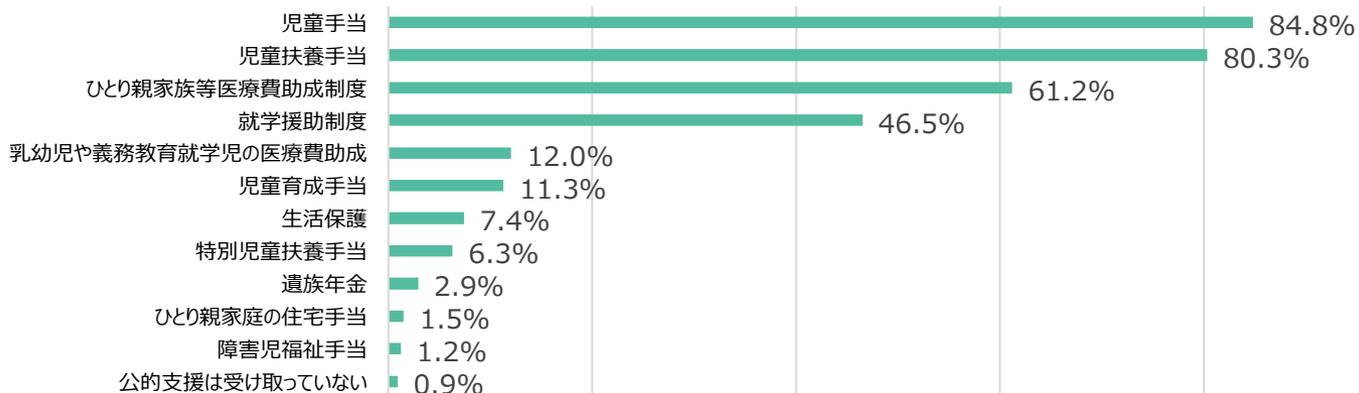
Q. コロナ禍での生活状況



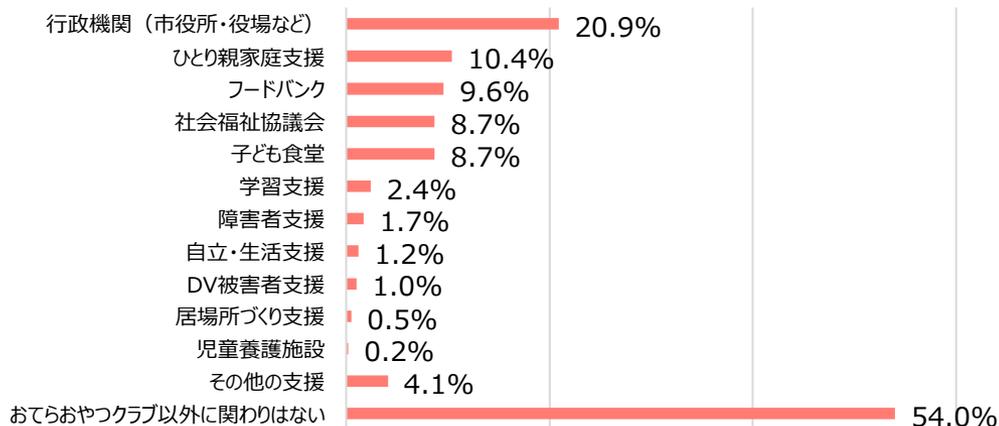
- ・「飲食店で経営が悪化している。あと何ヶ月働けるかと、日々不安」(飲食店)
- ・「観光業で大きな悪影響を受け、休業が続いている。冬、夏共に賞与なしに等しく、大変厳しい状況」(観光系企業)
- ・「主な活動場所であったイベントやライブなどパフォーマンスがすべて無くなった」(派遣)
- ・「派遣の契約が終わり、現在無収入となり、非常に厳しい生活です。娘も持病がありアルバイトが出来ません」(無職)
- ・「コロナで雇い止めにあってしまったため。その後鬱病を発症して、喘息もひどく仕事ができない状態です」(無職)

直接支援を受ける家庭は、公的支援の受給率が高くなく、おてらおやつクラブ以外の支援団体とのつながりは希薄である。

## Q. 受給している公的支援（複数回答）



## Q. 生活相談や支援を受ける団体（複数回答）

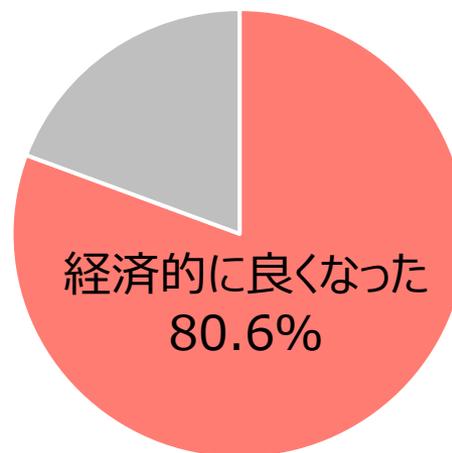


直接支援により、心理的状況が改善された方は9割以上を占め、経済的な状況改善（8割）を上回る。

Q. 直接支援による心理的状況の改善



Q. 直接支援による経済的状況の改善



Q. 状況改善の理由



- ・「お寺さんにつながってられるのが精神的に一番良かったと安心出来る」
- ・「一つ一つを手にする、たくさんの方が気にかけてくださっているんだ。送る荷物は少なくないはずなのに、一つずつ丁寧にお手紙を考えて書いていただいているんだ。と感じ、頑張ろうとまた思うことができます」
- ・「箱を開ける喜びと、送ってくださる方々の優しさに、心が救われます。家計的にも助けられています」
- ・「以前は晩御飯を子供に食べさせるだけで「どうして食べないの？」「一緒にたべようよ」と言われることが多々ありました。お米を送っていただけることで、金銭面でも精神面でもすこし助かります」

名称	認定NPO法人おてらおやつクラブ
所在地	〒636-0311 奈良県磯城郡田原本町八尾40
活動開始	2014年1月1日
認定NPO法人認証	2020年11月27日
Webサイト	<a href="https://otera-oyatsu.club">https://otera-oyatsu.club</a>
代表者	代表理事 松島靖朗
役員	理事 高山信雄 理事 野田芳樹 理事 福井良應 理事 桂 浄薫 理事 松野尾浩慈 監事 井出留美 監事 渡邊元浄
相談役	森本公穰